

ことうの女性

ともに支えるやさしい社会

<http://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/jinken/7803/index.html>



▲大塚俊貴さん親子(扇橋在住)
森下三丁目第三児童遊園にて

ワーク・ライフ・バランス 働き方と家庭生活の バランスを考える

ワーク・ライフ・バランスとは、仕事と仕事以外の生活(生活)を調和させるライフスタイルのこと。家庭や会社など、すでに私たちの身近なところで、さまざまな取り組みが始まっています。

少子化対策の鍵になるワーク・ライフ・バランス

少子化や人口減少など、社会の活力低下を解決するには、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の取り組みが大切です。

これまでの働き方を見直して、仕事と家庭生活の両立を図り、男女共同参画と少子化対策を推進することが必要になります。

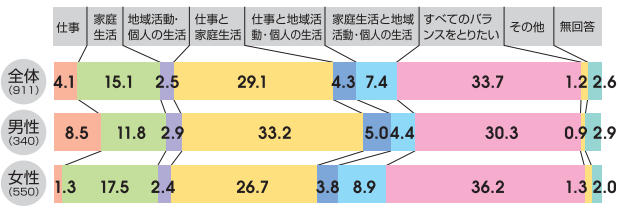
国は、仕事と生活の調和の実現に向けて2007(平成19)年に、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス憲章)」と「仕事と生活の調和推進のための行動指針」を関係閣僚、経済界、労働界、地方公共団体の政労使の代表者からなる「仕事と生活の調和推進官民トップ会議」において策定しています。憲章では、社会の目指すべき姿として多様な生き方を選択し実現できる社会を掲げています。

近年、経済情勢の悪化により、働き方も変化し、職場での長時間労働を強いられるケースが増えており、男女ともに仕事と育児などの家庭生活の両立が難しくなっています。

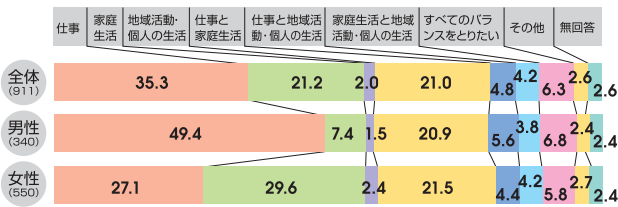
平成21年度に本区が実施した仕事と家庭生活のバランス(優先度)に関する「意識実態調査」において区民の希望は、仕事、家庭、地域活動など「すべてのバランスをとりたい」が3割強と一番多くなっています。しかし、現実には「仕事を優先している」が35%と一番多く、必ずしも希望と現実が一致していません。

今後、仕事と生活の調和を実現するためには、国・都・区におけるワーク・ライフ・バランス施策の推進はもろろんのこと、企業のワーク・ライフ・バランスへの理解と推進、区民一人ひとりの工夫など働き方の見直しが必要不可欠です。

職業生活・家庭生活の時間の優先度(希望)



職業生活・家庭生活の時間の優先度(現実)



1日30分残業時間を短縮した場合の年間試算(削減コスト)

単位:万円	従業員1000人	従業員500人	従業員50人人
〈削減コスト〉			
人件費(残業時間削減分)	30,814 (29,831)	13,588 (13,097)	1,253 (1,204)
光熱費(残業時間削減分)	(983)	(491)	(49)
〈投入コスト〉			
残業削減推進担当者の人件費	91 (91)	80 (80)	73 (73)
〈純削減コスト〉	30,723	13,508	1,180

資料「男女共同参画会議仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する専門調査会」(平成20年4月9日)
(注)このデータは一定の仮定を置いて定量的なコスト面での試算を行ったものであり、状況に応じ個別企業の実態のコストとは異なる場合があります。

仕事と子育ての両立支援を

女性の社会進出ははげましく、「女性はこどもができて、ずっと職業を持ち続けるのがよい」と考える人が増えています。そのためには、就業継続型の支援を充実することが必要です。

前述の「意識実態調査」では育児休業の利用経験において「周囲の事情により取得で



業務の効率化や長時間労働の是正を

働く人の仕事と生活の調和の実現には、働く場である企業の理解や取り組みの推進が欠かせません。そのため、企業に求められるのは両立支援や柔軟な働き方への基盤づくりです。

長時間労働の場合、仕事の効率性が落ちその分トラブルが

「きなかつた」と回答した人が4%おり、男性の方が女性より多くの回答をしています。また、17%の人が制度自体なかったと回答しています。男性が積極的に育児などの家庭内の仕事に関わり、女性とともに責任をわかちあえる支援体制づくりが求められています。

ワーク・ライフ・バランスに取り組むメリット

従業員が出産を機に退職すると大きな損失となります。人員の補充には採用や研修等にコストがかかるほか、それまでに培われた知識やノウハウが流出してしまいます。同じ従業員に育児休暇や短時間労働を与えた方が企業や従業員にとって大きなメリットとなります。

増える傾向にあります。業務目標を変えずに生産性を高めるには、仕事の効率化に努め残業時間を短くすることが大切です。従業員一人当たりの残業時間を1日30分短縮すると年間ベースでは大きなコスト削減になります。

※ワーク・ライフ・バランス……一人ひとりがやりがいをもちながら働き仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活でも、人生の各段階に応じて多様な生き方を選択・実現できることを指します。